



THE BULLETIN OF THE NAGASAKI UNIVERSITY LIBRARY

No.81

NOV. 30, 2000

目 次

歴史史料の保存について.....	1
最新式の図書館とモンゴルの図書館.....	3
他大学図書館の利用について.....	4
図書館機能に関するアンケート調査の結果について.....	5
本学関係教官著作寄贈図書（平成12年6月から9月）.....	13
研修報告「大学図書館職員長期研修」.....	14
図書館日誌.....	15



歴史史料の保存について

経済学部分館長 柴 多 一 雄

歴史研究のための史料を一般に古文書といいますが、日本は世界でももっとも古文書が残っている国の一つであると思います。私が主に研究対象としている江戸時代の古文書（近世文書）は、大名家の文書（藩政文書）や武士の文書、寺院や神社の文書もありますが、その多くはかつて村ごとにいた庄屋の文書で、一つの庄屋文書で数万点を数えるものも珍しくありません。17世紀から19世紀にかけての史料がこれほ

ど大量に残っているのは、世界的にみてもほとんど例がないといっているくらいです。

古文書は、その多くは和紙に墨で書かれたもので、綴じて表紙をつけて和装本のように仕立てられたものもあれば、紙縫（こより）で簡単に綴じただけのものもあり、半紙を折っただけの証文や巻紙を何重にも折り畳んだ書状のようなものもあります。

こうした古文書は冊子形態のものが和書と似

ていることから、これまでは図書館に保存されることが多かったのですが、図書と文書は作成の目的が違いますし、利用のされかたもかなり異なっていますので、早くからさまざまな問題点が指摘されてきました。

たとえば、いまではさすがにあまり見られなくなりりましたが、古文書は元来その所蔵者のもとでひとつのまとまりとして、一定の秩序をもっていたのに、図書館に所蔵されるときに十進分類法あるいはそれぞれの図書館の分類法によってばらばらにされてしまうということもその一つですし、保存の方法にしても、図書館では書架に整理番号順に配列するのが基本ですが、古文書は形態が実にさまざまですから、整理番号順に配列するのは容易でなく、特に冊子になっていない証文や書状類をどのように保存するかは、どの図書館も頭を悩ませている問題です。また和装本は、もともと横にして積んで置くものですが、分類が洋装本と同じになっていますと、洋装本と一緒に立てて並べられたりします。綴じ紐が切れたまま、洋装本の間にはさまれている検地帳などを見ると、なんということをするのだと、思わず声が出そうになるのは、おそらく私だけではないと思います。

また、文書を利用するためには目録を作らなければなりません、ある程度その文書による研究が進まなければその文書がどのようなものかわかりませんので、詳しい目録はなかなか作ることができません。その文書がどのように利用され、それによってどのようなことが明らかになったのかをいつも注意し、その文書の価値を絶えず確認していなければいけないのです。いいかえれば、文書には必ず人がついていなければいけないのです。

さらに、古文書は和紙に墨で書かれたものですから、紙魚などの虫や温度・湿度に対する対策も考えなければなりません。これは、なかなか大変な仕事で、県レベルの図書館では郷土課などを設けて対応しようとしています、係の

人が文書になれたころには人事異動で他の部署に移ってしまい、他所から来た利用者の方が詳しいといったことがしょっちゅう起こっています。

一方、古文書は古いものだからといって博物館に収められている場合もあります。しかし、博物館の収集の対象はモノが中心で、しかも博物館の目的は所蔵品の展示にありますから、古文書の閲覧利用には必ずしも適していません。また実際問題、閲覧利用のための体制が充分にとられていない場合には、博物館にお願いして館の都合に合わせて見せてもらわなければなりません。

このように、古文書は長い間、図書館からも博物館からもなにか邪魔者であるかのような扱いをされてきたようなのですが、近年では県や市などの自治体が文書館（公文書館）を建設して、こうした問題に対応するようになってきました。現在では、関東地方や近畿地方を中心にほとんどの県で文書館が建設され、市や町でも文書館が建てられるようになってきました。九州・沖縄では沖縄県立公文書館や福岡県の柳川古文書館など、まだあまり数は多くはありませんが、文書館を設置するという考えは確実にひろがっており、時間はかかるかもしれませんが、今後九州でも多くの文書館が建設されていくものと思われれます。

ところで、こうした古文書は、実は全国の大学にも大量に所蔵されており、その多くは図書館に保存されています。長崎大学にも経済学部分館所蔵の武藤文庫の古文書をはじめ多くの古文書が所蔵されています。しかし、いままでの公共図書館がそうであったように、大部分の図書館には古文書をあつかう専門家はいませんし、その保存場所さえよくわからないといったことが少なくありません。大学に所蔵されている古文書をどうするのか、「大学改革」が押し進められるなかで、この問題が非常に大きな問題となっているのです。

(しばた かずお)

最新式の図書館とモンゴルの図書館

留学生センター講師 守山 恵子

最近、二つの図書館と二つの図書室を見学する機会に恵まれた。一つは、最新式の設備を取り入れた国際基督教大学の新図書館で、あとの三つは、モンゴル訪問の際にウランバートルで訪れた図書館と図書室である。

9月はじめに、50万冊収納可能な国際基督教大学の新図書館の開館記念式典と見学会に参加した。コンピュータ制御の自動化書庫や、それぞれにコンピュータを配置した122の個人学習席に感嘆した。最新のコンピュータ設備を駆使することが、印刷物の否定につながるという考えもあるが、印刷された書物の効率的な利用を目指してこの新しい図書館が作られたということであった。開架式のこれまでの図書館に収蔵しきれなくなった図書は、新図書館ができるまで、倉庫に預けられていたのだという。使いたい旨の要求が出されると、その倉庫から取り出すのに数日かかり、また、倉庫の賃貸料もばかにならなかったということである。新しい自動化書庫は印刷物の保管環境も整っており、自然劣化を最小にすることも可能だということだった。これまでも、大学図書館として、非常に高い図書館利用率を誇ってきた国際基督教大学図書館であるが、新図書館の開館によって、所蔵図書や様々な情報をさらに十二分に活用できる環境が整い、利用率が上がるだろうと思われた。

モンゴルの首都、ウランバートルにある公立図書館は閉架式の図書館である。カードカタログを見ると、ほとんどがロシア語の文献で、モンゴル語の文献はごくわずかである。モンゴルは10年前に民主化され、大きな変化のなかにあるが、それ以前はロシア語の教育がなされていたために、文献がほとんどロシア語だということのもうなずける。しかし、そのロシア語の文献にしても、あまり広くない書庫の書架のそここに横に寝かせて置かれていた。

閲覧室には40～50脚の椅子とテーブルが置かれていたが、訪ねていった時には利用者は全くいなかった。図書館員も一人しかおらず、「書架の本はロシア語の本ばかりだから見てもわからないでしょう」ととりつくしまがなかったので、くわしいことを聞くことはできなかったが、閲覧室の一つの壁面に書架があり、何種類かの教科書が並べられていた。教科書は大学でも貸し出しが一般的なようで、これらの教科書も貸し出し用なのかもしれない。表紙の紙も薄く、大切に取扱わないと破れてしまうのではないかと心配になるような教科書が並んでいるその書架の端に、ひときわりっぱな百科事典が並べられていて、場違いのようにも見えたが、それは日本語のブリタニカであった。

この公立図書館に大阪国際交流センターが送り続けているという日本語の本ばかりを収蔵した図書室もあった。外国語教育熱や外国語学習熱は高く、モンゴルの日本語学習者も増加の傾向にある。それら学習者のために送られてきている本だということだった。たくさんの小学生のための教科書や児童書、国語辞典、百科事典が並べられていたが、実際のところ人気があるのは、例えば日本語が分からなくても楽しむことができる美術全集のようなものだということであった。他ではこのように美しい印刷の絵画を見るのは難しいからだろう。

モンゴル国立大学の国際言語文化学部の図書室には、ハードカバーの新しい本がたくさん並んでいたが、よく見るとほとんどすべて教科書で、同じ本が10～20冊の単位であり、英語で書かれたものが多かった。日本人がイメージする図書室、図書館とはずいぶんかけ離れている。それでも、国立大学は外国からの援助も多いし恵まれているというのが、他大学の先生たちの評価であった。

モンゴルでは、今、小中学校の先生はもちろん、大学の先生でも給料だけでは生活ができないという。そのような状況で自分で文献を入手することなど考えられない研究者のために、図書館が少しずつでも充実していく可能性はあるのだろうか。モンゴルは、モンゴル語表記にもロシア文字を用いてきたが、最近は古いモンゴル文字の復権を目指して、学校教育のなかでも取り入れるようになってきているのだという。ロシア文字であれ、モンゴル文字であれ、モン

ゴル語で書かれた文献が増えていくことが、モンゴルの図書館の充実につながるのだろう。

長崎大学に留学しているあるモンゴル人の学生は、開架式の長崎大学の図書館に大いに満足していると話していた。長崎大学の図書館に願うことは、さらに留学生にも使いやすい図書館を目指してほしいということと、これから図書館を整備していかねばならない国からの留学生の手本となるような図書館であってほしいということである。

(もりやま けいこ)

他大学図書館の利用について

～手続き変更のお知らせ～

九州地区の大学図書館では、学生証等による相互利用制度を推進しています。

これは入館時に学生証・身分証明書を提示することにより他大学図書館の利用ができるというものです。制度の基本原則と各館の利用案内が図書館ホームページの「学生証等による利用案内」に掲載されています。利用したい場合は、事前に相手方図書館の利用案内を確認したうえで訪問されるようお願いします。

九州地区以外の他大学図書館を利用するには、一般に、所属大学の図書館が発行する紹介状と学生証・身分証明書を入館時に提示する必要があります。

紹介状（図書館利用依頼書）の発行申し込みは、各館カウンターで受け付けていますので、他大学図書館を利用したい場合はお申し出ください。

特に、大学院学生を含む研究者の皆様へ

相手方が国立大学等の図書館の場合に従来発行していましたが「共通閲覧証」は廃止になりました。今後は学生証・身分証明書の提示によって、訪問先図書館の利用ができますので、ご利用の際は学生証・身分証明書を携帯願います。

(情報サービス課運用係)

図書館機能に関するアンケート調査の結果について

附属図書館（中央図書館）では、平成12年1月から2月にかけて学習及び研究図書館機能についてアンケート調査を実施しました。集計結果については図書館運営委員会で既に詳しく報告していますが、ここに概要を掲載することにより、附属図書館のかかえる課題を広く理解していただくとともに、今後の図書館運営に役立てていきたいと思っております。

I 学習図書館機能について

調査実施日：平成12年1月19日～21日

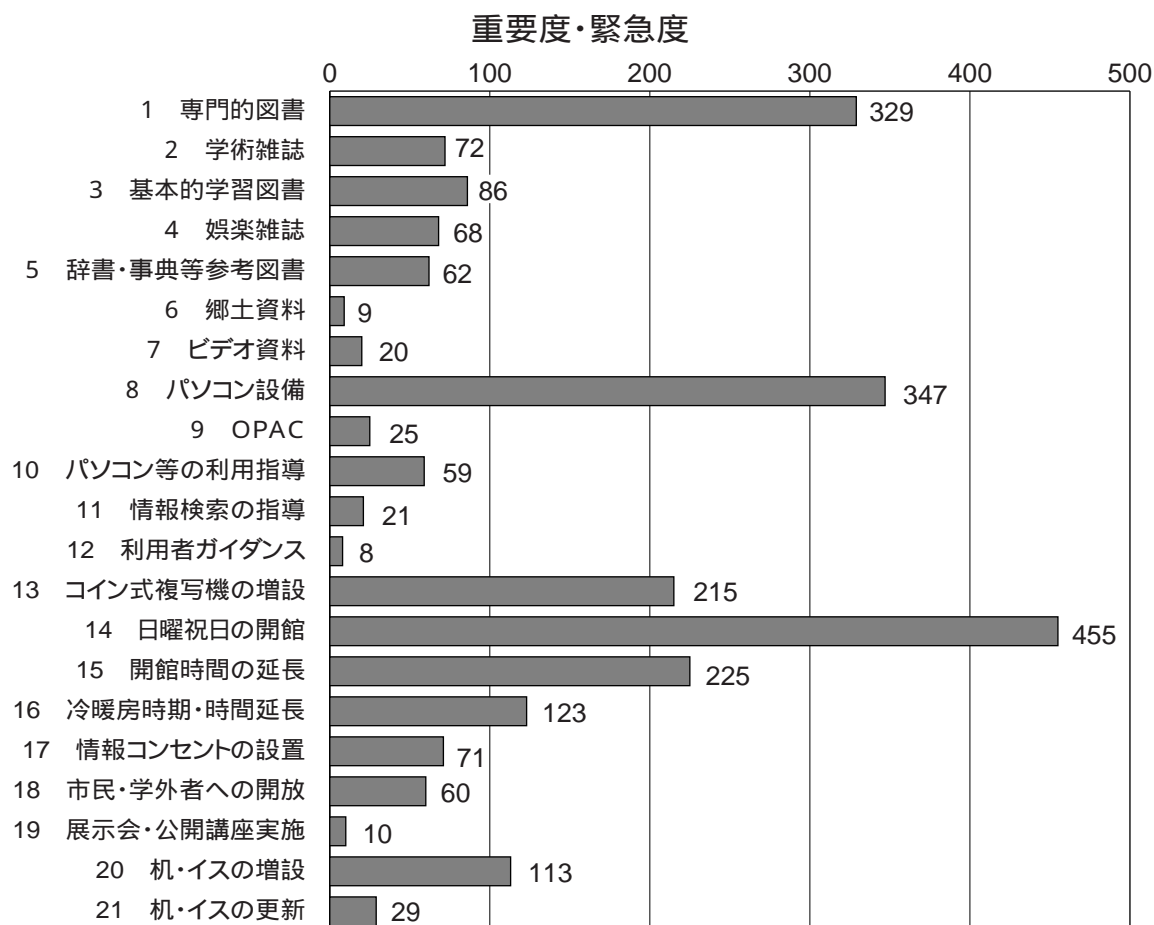
配布方法：3日間の入館者3,215人に配布し、退館時に回収しました。今回の調査は学生、院生等を対象としたもので、教官、職員と思われる人にはできるだけ配布しませんでした。

回収数：886人

3日間の入館者数3,215人に対する回収率は28%、文教地区学部学生・院生等5,095人に対する回収率は17%でした。

0. 重要度・緊急度

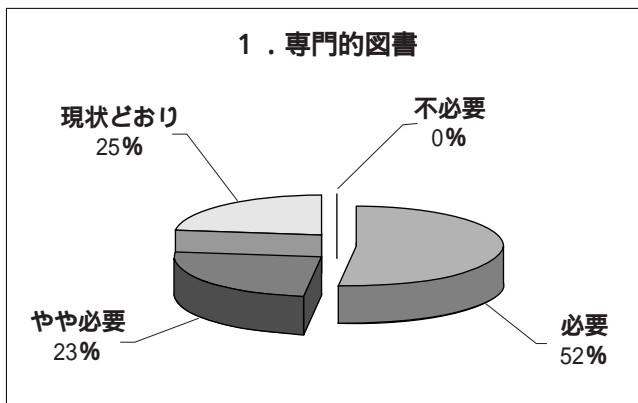
21項目の質問のうち、「重要度・緊急度」という観点から3項目を選んでもらいました。集計の結果は以下のグラフが示す通り、圧倒的に「日曜祝日開館」の希望が多く、また強く望むという意見が書き加えられていたものもありました。「開館時間の延長」と合わせて考えると、開館日・開館時間の充実は緊急を要するようです。その他、「パソコン設備」や「専門的図書」の充実についても多くの意見が寄せられています。個別の項目については以下のそれぞれの集計表で示したとおりです。



1. 専門的図書

専門的図書に関する意見は多く、また足りないとする専門的図書はそれぞれの専門分野、教科にわたって記入されています。特に教育学部の利用者からの要望は各教科に及んでいます。「図書が少なくてレボ - トも書けない」という意見も出ています。

1. 専門的図書	合計	%
必要	457	52
やや必要	205	23
現状どおり	223	25
不必要	1	0
合計	886	100



- ・図書が少なくてレボ - トも満足に書けない時がある。
- ・専門的図書が少ない、汚い、古い。
- ・新刊本が少ない。
- ・研究室所蔵になっている図書が借りにくい。
- ・研究室所蔵図書の教官名がわからない。

《足りないとする専門的図書の例》

教育学部：哲学 心理学 臨床心理学 郷土資料 地図 数学 理科教育 文学（国語） 古典文学
 文法書 保育 新しい指導要領 幼児教育 特殊教育 障害児教育 福祉 外国語の教科書
 社会教育 道德教育 社会学 植物学 美術史 音楽 油絵 デッサン
 工学部：情報処理関係 コンピュータ関係 電気・電気通信 機械 リニアモータ セラミックス
 高分子 振動工学 流体力学 材料力学 土木 建築 土質 水理 構造力学
 環境科学部：環境科学関係 森林環境関係 地球環境問題 都市計画 生態
 薬学部：化学反応構造 生物物理 生化学 免疫 神経 生体機能 薬学 医学
 水産学部：食品化学 栄養学 海洋系科学 栽培漁業 水産関係 寄生虫学 食物関係 漁業管理

2. 学術雑誌

学術雑誌を「必要とする」という要望は全体で20%、「現状どおり」とする意見の方が63%と多くなっています。これはどの学部も同様で、もっとも高い割合を示しています。

2. 学術雑誌	合計	%
必要	178	20
やや必要	136	15
現状どおり	557	63
不必要	15	2
合計	886	100

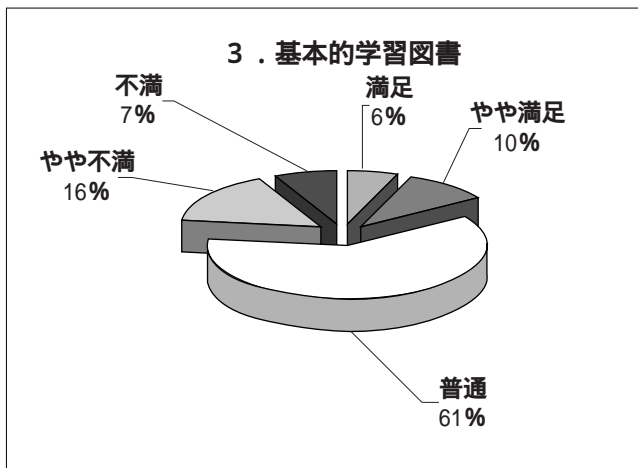
《必要とする雑誌の例》

数学セミナ - 児童教育関係雑誌 学校経営雑誌 国語教育雑誌
 I E E E ナショナル・ジオグラフィック（日本版）
 実験医学の号外 食物連鎖 Bio-City

3. 基本的学習図書

基本的学習図書については、専門的図書と違って「不満」とする意見が少なくなっています。「やや不満」と合わせても23%です。しかし「満足」（6%）しているわけではありません。以下のような意見が出ています。

3. 基本的学習図書	合計	%
満足	53	6
やや満足	93	10
普通	540	61
やや不満	141	16
不満	59	7
合計	886	100



- ・資料をもっと増やしてほしい
- ・授業で使う図書は揃えてほしい
- ・パソコンやソフト関係の入門書が少ない
- ・あまりそろってない 新しいものが少ない
- ・多分野にわたる図書が少ない

4. 娯楽雑誌	合計	%
満足	24	3
やや満足	37	4
普通	489	55
やや不満	227	26
不満	109	12
合計	886	100

5. 辞書事典等参考図書	合計	%
満足	58	7
やや満足	64	7
普通	475	53
やや不満	221	25
不満	68	8
合計	886	100

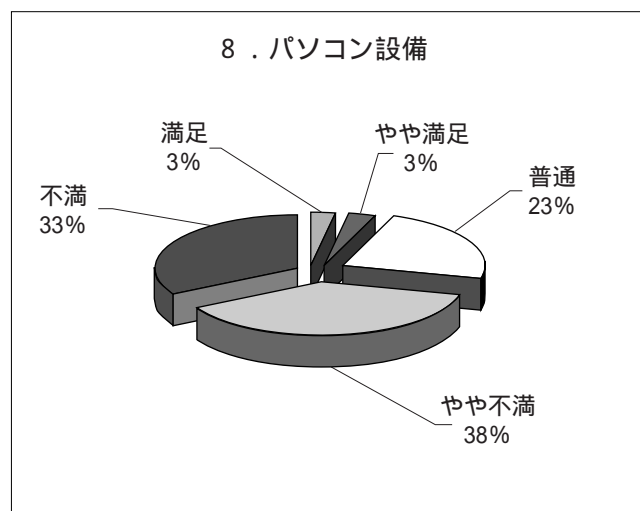
6. 郷土資料	合計	%
満足	66	7
やや満足	43	5
普通	696	79
やや不満	69	8
不満	12	1
合計	886	100

7. ビデオ資料	合計	%
満足	32	4
やや満足	18	2
普通	619	70
やや不満	145	16
不満	72	8
合計	886	100

8. パソコン設備

パソコン設備については、「不満」と「やや不満」を合わせると71%にもなります。これは「9. OPAC」及び「10. パソコン等の利用指導」の質問項目と合わせて様々な不満があることの結果と思われます。特にパソコンの台数が足りないという意見が最も多く見られました。

8. パソコン設備	合計	%
満足	24	3
やや満足	24	3
普通	207	23
やや不満	335	38
不満	296	33
合計	886	100



- ・パソコンの数が足りない
- ・X 端末が使いにくい (ログイン)
- ・マニュアルの整備 立ち上げ方がわからない
- ・基本的な使い方がわからない 教えてほしい
- ・パソコンにCD-RかCD-RWの設備を
- ・X 端末よりも普通のパソコンを増やしてほしい
- ・パソコンの利用は検索などの利用を優先的にしてほしい

9. OPAC、10. パソコン等の利用指導、11. 情報検索の指導

これら3つの質問項目については、いずれも「必要ない」とする意見のほうが多くなっています。しかし「マニュアルの整備」「基本的なことの利用指導が必要」などの意見もあります。また、この3項目についての意見は、それぞれを特にはっきりと区別することなく記入されたものが大部分と思われます。

9. OPAC	合計	%
満足	71	8
やや満足	70	8
普通	566	63
やや不満	121	14
不満	58	7
合計	886	100

- ・パソコンの数がたりない
- ・マニュアルの整備 使い方がわからない
- ・全蔵書が検索できるようにしてほしい
- ・故障の時対応できる人がいてほしい
- ・パソコンの立ち上がりが遅い
- ・あるはずの本が出てこない
- ・どこにあるかわからないので案内が必要
- ・書名からだけでなく目次からも検索できるようにしてほしい

10. パソコン等の利用指導	合計	%
必要	319	36
不必要	567	64
合計	886	100

- ・立ち上げ方がわからない
- ・使えない時がある
- ・UNIXの利用指導
- ・マウスの動きの悪いものがある

11. 情報検索の指導	合計	%
必要	288	33
不必要	598	67
合計	886	100

- ・キ-ワ-ドで検索できないか
- ・入学時に教えてほしい
- ・検索などの利用を優先をさせてほしい
- ・少し詳しい(応用編的)指導をしてほしい

12. 利用者ガイダンス	合計	%
必要	146	16
現状どおり	689	78
不必要	51	6
合計	886	100

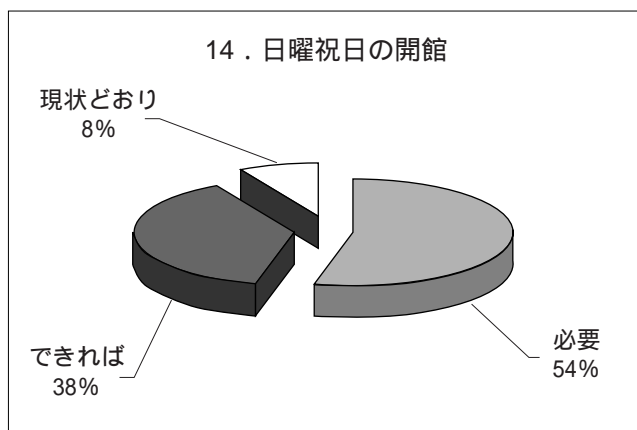
13. コイン式複写機の増設	合計	%
必要	361	40
できれば	352	40
現状どおり	173	20
合計	886	100

14. 日曜祝日の開館

日曜・祝日の開館の希望は圧倒的に多く、「できれば必要」という意見と合わせると92%の利用者が希望していることになります。

「15. 開館時間の延長」とあわせると、開館日・開館時間拡張の希望はきわめて強いものがあります。

14. 日曜祝日の開館	合計	%
必要	481	54
できれば	336	38
現状どおり	69	8
合計	886	100



- ・日曜・祝日開館は是非実施してほしい
- ・利用したい時に図書館が開いていない

15. 開館時間の延長	合計	%
必要	362	41
できれば	261	29
現状どおり	263	30
合計	886	100

16. 冷暖房時期時間延長	合計	%
必要	324	36
できれば	272	31
現状どおり	290	33
合計	886	100

17. 情報コンセントの設置	合計	%
必要	232	26
できれば	437	50
不必要	217	24
合計	886	100

18. 市民学外者への開放	合計	%
必要	177	20
できれば	217	24
現状どおり	401	46
不必要	91	10
合計	886	100

19. 展示会公開講座実施	合計	%
必要	108	12
できれば	175	20
現状どおり	469	53
不必要	134	15
合計	886	100

20. 机・イスの増設	合計	%
必要	198	22
できれば	251	28
現状どおり	390	45
不必要	47	5
合計	886	100

21. 机・イスの更新	合計	%
必要	128	14
できれば	184	21
現状どおり	480	54
不必要	94	11
合計	886	100

《その他図書館に関する意見》

【施設・設備】

- ・ 照明器具の交換を適宜行ってほしい
- ・ 一人用の机の増設 机上ライト付きの机の設置 3階自由閲覧室の机を増やしてほしい
- ・ 障害者のためのエレベータの設置が必要では
- ・ 図書館が狭い 古い
- ・ トイレの入口にドアをつけてほしい
- ・ 出入り口の機械の開くのが遅い 入館時に時間がかかりすぎる
- ・ 館内に喫煙できる場所を 飲食できる場所を ジュースなどは持ち込めないのか

【空調】

- ・ 冷暖房の稼働時間の延長（特に試験期など）
- ・ 土日でも空調を入れてほしい（特に夏の冷房を）

【利用者のマナー】

- ・ 利用者のマナーが悪い（騒がしい） 3階の利用者がうるさい グループで利用してる人が騒がしい
- ・ 携帯電話がうるさい 携帯電話が使えないようにできないか
- ・ 職員が注意してほしい

【貸出・返却】

- ・ 貸出冊数を増やしてほしい どの本も貸出しできるようにしてほしい
- ・ 貸出期間をもっと長くしてほしい
- ・ 返却した図書のこと、後で確認されたことがある

【その他】

- ・ 図書館の活動情報（広報、お知らせ）が少ない（公開講座など）
- ・ 県立図書館との連携が必要では
- ・ 資料の配置がわかりにくい
- ・ 職員の対応 気軽に尋ねられる雰囲気 職員の電話の声
- ・ 小説、ベストセラ、文庫本、推理小説などの一般的な読物を備えてほしい
- ・ 情報化社会に対応した設備を
- ・ CNNが見られるようになってうれしい CNNは日本語はダメですか
- ・ 学生のための図書館づくりをしてほしい
- ・ アンケートの結果を活かしてほしい

II 研究図書館機能について

調査実施日：平成12年1月14日～2月10日

配布方法：文教地区各部局のメ-ルボックスに投函し、ボックス横に設置した回収箱に入れてもらいました。

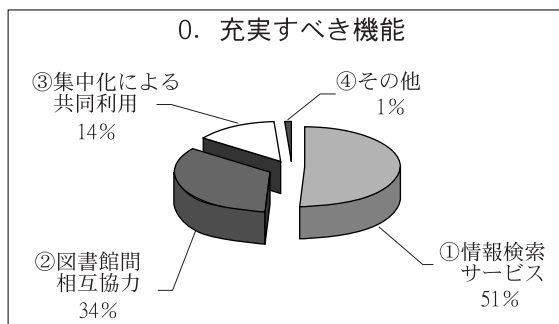
回収数：145人

文教地区各部局等の助手以上の教官380人に対する回答率は38%でした。

0. 充実すべき機能

研究図書館の充実すべき機能として以下の3つの機能についてたずねたところ、下のグラフのような結果がでました。最も充実すべき機能としては、「①情報検索サービス」(51%)、次いで「②相互協力によるサービス」(34%)となっています。この傾向は前回(平成3年3月)の調査と同じですが、その割合は①が43%、②が30%で、今回の方がより高くなっています。

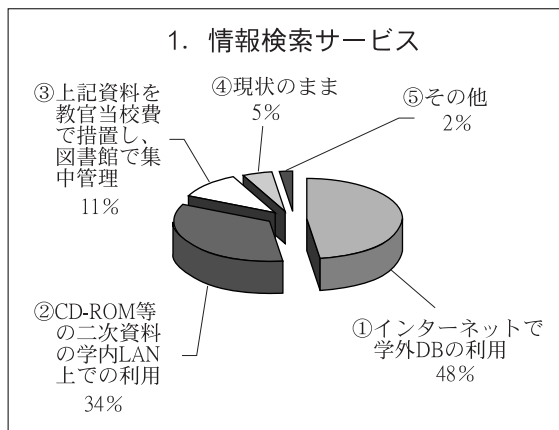
0. 充実すべき機能	回答	%
①情報検索サービス	126	51
②図書館間相互協力	85	34
③集中化による共同利用	36	14
④その他	2	1
合計	249	100



1. 情報検索サービス

充実すべき要求度の最も高かった「情報検索サービス」をさらに詳細にたずねたところ、下のようになりました。傾向としては前回と同じですが、質問の内容で「インターネット」や「学内LAN」の利用については尋ねていなかったことが前回と異なります。いずれにせよ広範囲の学術情報の迅速な入手を望んでいることに変わりはありません。

1. 情報検索サービス	回答	%
①インターネットで学外DBの利用	106	48
②CD-ROM等の二次資料の学内LAN上での利用	76	34
③上記資料を教官当校費で措置し、図書館で集中管理	24	11
④現状のまま	10	5
⑤その他	5	2
合計	218	100



《ご意見》

- ・ データベースによる情報検索、文献入手サービスの充実を
- ・ CD-ROM等二次資料の充実、インターネットでの利用を切望します
- ・ CASオンラインへのアクセスを容易にしてほしい
- ・ 大学の規模から見て学術雑誌が少ない。これを補うためにも情報検索サービスの充実を望む。 CD-ROM、DBの利用拡大を
- ・ 図書館もしくは学部で購入している学術雑誌をインターネットで利用できるようにしてほしい

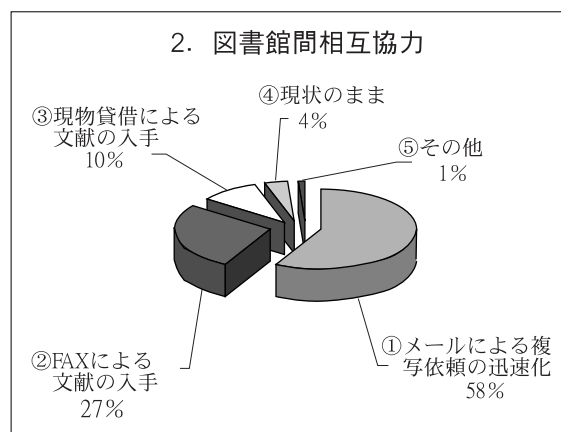
2. 図書館間相互協力

「①メ-ルによる複写依頼の迅速化」の希望が最も多く、58%でした。これは情報検索で得られた結果に基づく文献の速やかな入手、あるいは文献入手に関わる前後の連絡の迅速化が求められているということです。「②FAXによる文献の入手」27%と合わせると85%にもなります。

2. 図書館間相互協力	回答	%
①メールによる複写依頼の迅速化	125	58
②FAXによる文献の入手	60	27
③現物貸借による文献の入手	23	10
④現状のまま	9	4
⑤その他	3	1
合計	220	100

《ご意見》

- ・文献複写を教官のFAXに直接出力できないか
- ・文献複写のやりとりをメールでできるようにしてほしい
- ・特に、電子ジャーナルで容易に論文を取得できる環境を今以上に整備してほしい



3. 集中化による共同利用体制

集中化による共同利用体制については、図書と雑誌それぞれについてお尋ねしました。前回（平成3年3月）と異なるのは、雑誌に「④電子ジャーナル」の項目を追加した点ですが、記入されたご意見には「教官当積算校費より共通経費として措置」ということに関するものが多数ありました。

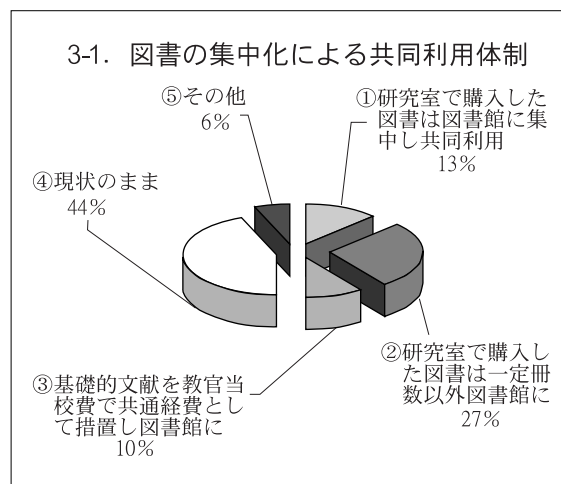
3-1. 集中化による共同利用体制

結果は、図書については「④現状のまま」が44%と最も多くなりました。これは前回（37%）よりも多くなっていますが、最も多い割合の回答であるのは同じです。また、この傾向は「センタ-」をのぞいて全部局共通でした。

3-1. 図書の集中化による共同利用体制	回答	%
①研究室で購入した図書は図書館に集中し共同利用	18	13
②研究室で購入した図書は一定冊数以外図書館に	38	27
③基礎的文献を教官当校費で共通経費として措置し図書館に	14	10
④現状のまま	61	44
⑤その他	8	6
合計	139	100

《ご意見》

- ・教官当校費の配分により「共通経費」として負担すべき
- ・「教官当校費により共通経費として措置する」ということを文教地区ではやってないので、理解しにくいのでは
- ・基礎的な文献は大学全体の予算の中で共通経費化した予算で購入すべき
- ・通常校費とは別に新しいプロジェクトをおこして国に働きかけ予算獲得に努力して、各部局への負担はなしにしてほしい
- ・一定期間すぎたものを図書館に置く
- ・専門書は研究室に置く（研究室に必要な図書を図書館に置いても有効利用にはならない。研究室にとってメリットはない）



3-2. 雑誌の集中化による共同利用体制

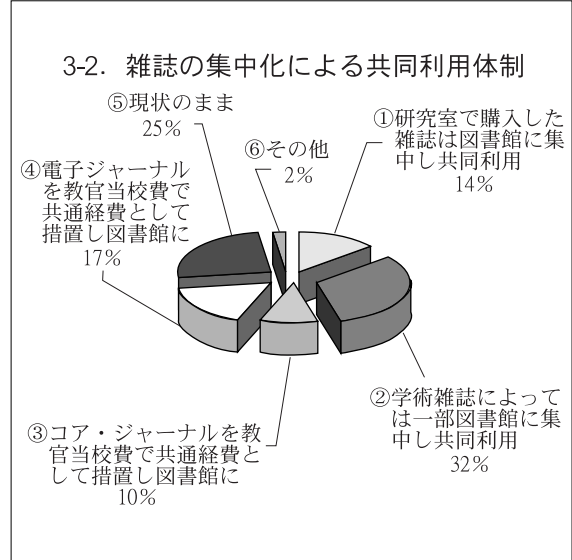
「図書の集中化」と違って、雑誌についてはグラフに示すとおり「一部図書館に集中して共同利用」が32%と最も多い割合になっています。しかし部局別に見た場合、工学部は「⑤現状のまま」が47%、薬学部は「④電子ジャーナルを当校費により共通経費として図書館に集中」が58%と最も多くなっているのが特徴的です。

設問について、雑誌の集中化と当校費による共通経費化とは別にすべきであり、「一部学術雑誌」と「コア・ジャーナル」と「電子ジャーナル」は重なる部分もあり、別の場合も考えられます。また、コア・ジャーナルが具体的に何を指すのか不明確という指摘もあります。集中化による共同利用体制に関する質問の仕方については、工夫の余地がありそうです。

3-2. 雑誌の集中化による共同利用体制	回答	%
①研究室で購入した雑誌は図書館に集中し共同利用	19	14
②学術雑誌によっては一部図書館に集中し共同利用	44	32
③コア・ジャーナルを教官当校費で共通経費として措置し図書館に	14	10
④電子ジャーナルを教官当校費で共通経費として措置し図書館に	24	17
⑤現状のまま	35	25
⑥その他	3	2
合計	139	100

《ご意見》

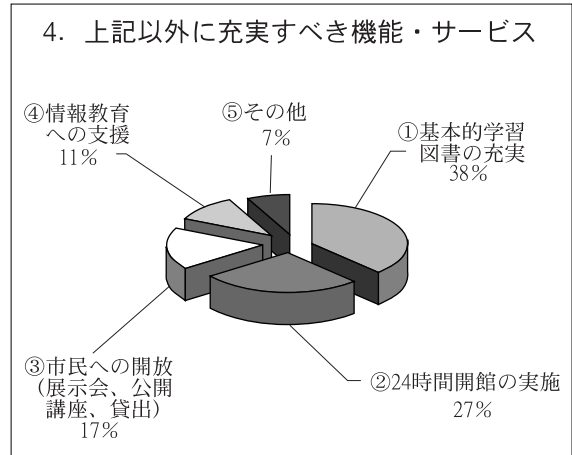
- ・コア・ジャーナル、電子ジャーナルにどんなものがあるかわからないので、答えられない
- ・「学術雑誌によっては当校費より共通経費として措置し図書館に集中して共同利用する」とすべき
- ・資料の集中化をするには、電子図書館機能の充実が最低限必要
- ・コア・ジャーナル、電子ジャーナルの「共通経費化」による負担は、自然系部局の当校費の配分により負担
- ・文系と理系の部局の分担配分を異にする。理系部局の各当校費配分の一定比率で各部局が必要とする雑誌を全体で購入し、共同利用する
- ・古い雑誌を図書館に保存して共同利用する
- ・〔図書・雑誌の図書館への集中化については〕研究室が望む場合に、〔図書館はそれを〕受け入れる
- ・「教官当校費により共通経費として措置する」ことには、反対。図書は実験道具と同じでいつも側にあることが必要
- ・図書・雑誌を共通経費として中央でとることには絶対反対です。コア・ジャーナルの設定が不可能
- ・研究室購入の図書雑誌の図書館への集中化には、(1)購入した教官への配慮 (2)開館時間の延長 が不可欠



4. 上記以外に充実すべき機能・サービス	回答	%
①基本的学習図書の充実	75	38
②24時間開館の実施	53	27
③市民への開放（展示会、公開講座、貸出）	33	17
④情報教育への支援	21	11
⑤その他	14	7
合計	196	100

《ご意見》

- ・知的好奇心を引き起こさせる空間の提供
- ・24時間開館の実現 日曜祝日開館
- ・コピー機の増設
- ・遊及入力を促進し、全蔵書のコンピュータ検索ができるように
- ・体系的な図書の購入 個人全集が少ない



5. 其他のご意見

- ・市民への開放は、大学の地域への協力の観点からは是非必要。市民への開放は大学の敷居を低くする意味で有意義
- ・長崎に関する郷土資料を積極的に収集し、専門的知識を有する者を置く。
- ・地域情報の収集に力を入れてほしい。それが、大学図書館が「地域シンクタンク」として機能するための基礎づくりになる
- ・図書館の宣伝が必要（公開講座など） 相談できる人を置いてほしい
- ・これはアンケートを装った要望書であり、選択肢にバランスを欠いている。集計しても公平な判断ができない
- ・長崎大学の規模でどの程度のことが実現可能か方策を運営委員会で議論。運営委員会が十分機能してない
- ・書庫の本を自由に貸出しできるように。蔵書が圧倒的に少ない（洋書の専門書、外国雑誌、理系の図書、基本的図書）
- ・新書コーナーの設置 図書貸出期間を長く、冊数を多く。図書の整理が遅い
- ・一度利用した図書を書架に戻すのは職員がやってほしい。間違ったところに戻したのでは意味がないから

本学関係教官著作寄贈図書

(平成12年6月～9月)

中央図書館



谷川昌幸 訳
ネパール王国憲法
(ネパール研究会)

ネパールは豊かな自然と文化をもつ反面、経済的には貧しく、近代化・民主化は遅々として進まなかったが、ようやく1990年春、市民が一斉に立ち上がり「民主化革命」を成功させ、人民主権の議会制民主主義を樹立した。

本書に全訳を収めたネパール憲法は、この革命の成果を法的に確定した立憲君主制憲法であり、憲法学者だけでなく、アジアの近代化・民主化を学ぶ人々にとっても参考になるものと思う。

(教育学部社会科教育学科 谷川 昌幸)

医学分館



後藤譲治 著
ヒットラーと鉄十字章
(文芸社)

勲章・徽章を通してヒットラーとその時代を見つめたもので、ヒットラーデザインによる勲章なども掲載されている。

ヒットラーは常々「自分は偉大な芸術家になるべきで、政治家などになるのではなかった」と述べているだけあって、芸術、デザイン等に対する造詣が深く、カギ十字や鷲のシンボルデザインを用いて、巧みに民衆の扇動を行った。

本書は長崎大学の全学教育「平和講座・シンボルによる民衆の扇動」の講義をまとめたもので、ヒットラーという20世紀が生んだ梟雄の別の側面をお知らせできれば幸いである。

(歯学部小児歯科学講座 後藤 譲治)

蔵書に加えさせていただきました。ありがとうございました。
なお、これからも著作物を刊行されました折には、図書館へご寄贈いただきますようお願いいたします。

研修報告「大学図書館職員長期研修」

情報管理課雑誌管理係長 志波原 智 美

7月10日から7月28日の約3週間、筑波と東京で行われた「平成12年度大学図書館職員長期研修」に参加させていただいた。図書館とその関連するさまざまなことについて、ジャンルを特定せずに総合的に学ぶ研修である。

受講者は38名。30代から40代の男性20名、女性18名が、ちょうど学校時代の1クラスの生徒のように、机を並べて勉強した。

講師陣は、文部省関係、大学関係者のみならず、民間企業からも専門家を招いて、豪華な顔ぶれである。各所の見学も用意され、いたれりつくせりの研修だった。

その中でも、やはり中心になったのは、現代の大学図書館に覆い被さってきた、電子化資料の大波に関する研修である。この波に上手に乗ることができるか、あるいは飲み込まれ、流されてしまうのかが、大学図書館の将来を分けると言っても過言ではない。

長崎大学附属図書館でも、電子ジャーナルの導入や、各種データベースの整備が急務である。しかし私は、今春から電子ジャーナル等の担当部署である雑誌管理係に配属されたにもかかわらず、基礎的な知識・認識が共に追いつかず、不安ばかりがつのる状態だった。そんな時に、先進的な大学の取り組みについて聞き、また最

新鋭の設備を見学できたことは、本当に幸せだった。

しかし、この研修には、先端的なプログラムばかりが組まれていたわけではない。時代の流れとは無縁とも感じられる、学問の原点を思い出させるような講義もいくつかあった。

大学卒業以来、ほとんど聞く機会のなかった、大学教官の講義。その先生が、いかに自分の研究に情熱をささげ、愛情をそそいでいるかがひしひしと伝わって来る。この先生方の研究をお手伝いできる図書館員でありたい、こんな風に学問を愛する人が育つような図書館にしたい、という夢と誇りを思い出させてくれる。そういうすばらしい講義を聴くことができた。

また、もうひとつの得難い体験は、同世代の多くの仲間と知り合い、語りあったことだ。メールやFAXで業務上の情報を取り寄せるのとは違う、ナマの人間、ナマの言葉の持つ力は、私を勇気づけてくれた。

この研修に参加したことは、私自身の図書館員としての土台を固めるのに、大変役立ったと思う。関係者の方々への感謝を、図書館の利用者のために役立つことで示せるよう、努力していきたい。

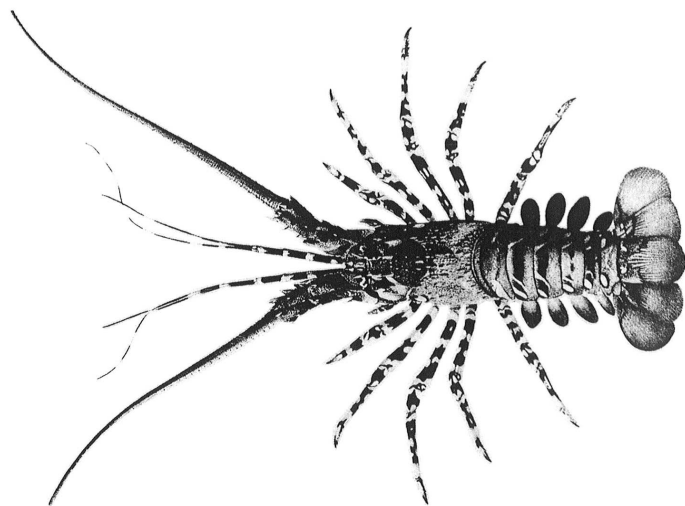
(しばはら ともみ)



図 書 館 日 誌

- 6月2日 経済学部分館運営委員会
- 6日 附属図書館初任者研修（泉総務主任・山本経済学部分館図書係員・森石図書管理係員・宮崎医学分館運用係員・堤雑誌管理係員）
- 9日 文教地区委員協議会
- 15日 長崎県大学図書館協議会総会（於：長崎県立図書館 館長・事務部長・両課長・図書館専門員・参考調査係長）
- 16日 ホームページ編集WG会議
- 20日 館長・分館長会議
附属図書館運営委員会
- 26日 係長会議
- 28日 国立大学図書館協議会総会（於：金沢市文化ホール6/28～29 館長・事務部長・図書館専門員）
- 29日 長崎大学語学（英語・初級）研修（於：附属図書館研究開発室6/29～7/31 深川システム管理係員・森石図書管理係員）
- 7月4日 選書分科会
図書館見学（玉名高校PTA役員・教職員約25名）
- 7日 経済学部分館運営委員会
図書館見学（県立佐世保東翔高校1年生54名・関係職員）
- 10日 大学図書館職員長期研修（於：図書館情報大学等7/10～28 志波原雑誌管理係長）
- 11日 文教地区委員協議会
- 19日 係長会議
- 24日 図書館実習（於：附属図書館7/24～28 別府大学生：溝上秀一・今林隆人）
企業会計等事務研修（於：事務局7/24～8/4 泉総務主任）
- 29日 九州地区国立大学附属図書館ソフトボール大会（於：雁の巣レクレーションセンター）
- 31日 医学分館運営委員会
- 8月1日 長崎県大学図書館協議会研修会（於：長崎県立長崎図書館 喜多図書館専門員・松尾参考調査係長・平林雑誌管理係員・坂口運用係員・佐々木医学情報係員・峯医学分館運用係員）
- 21日 長崎県大学図書館協議会研修会（於：長崎外国語短期大学 村上情報サービス課長・喜多図書館専門員・松尾参考調査係長・小山図書管理係長・酒井運用主任・小森参考調査主任・森石図書管理係員）
- 22日 館報編集委員会
- 23日 図書館等職員著作権実務講習会（於：九州大学8/23～25 松尾参考調査係長）
- 25日 九州地区医学図書館協議会総会（於：鹿児島大学 林医学分館長・山崎医学分館運用係長）
図書館情報学実習（於：附属図書館8/25～9/14 図書館情報大学生 山口ひとみ）
- 28日 長崎県下国立学校等事務情報化（エクセル）研修（於：総合情報処理センター 8/28～29 松尾参考調査係長・森石図書管理係員・佐々木医学情報係員・宮崎医学分館運用係員）
- 30日 長崎県下国立学校等事務情報化（エクセル）研修（於：総合情報処理センター 8/30～31 溝越図書管理係員・濱口医学情報係員）
- 9月1日 NACSIS-IR地域利用説明会（於：九州大学 宇戸経済学部分館図書係員）
- 20日 館長・分館長会議
- 21日 係長会議

- 25日 長崎県下国立学校等係長研修（於：事務局等 志波原雑誌管理係長・宮脇システム管理係長・松尾参考調査係長）
- 29日 医学分館学生用図書選定委員会
- 10月6日 「バーチャルリアリティー技術による古写真の3次元表示」の公開と実演（於：視聴覚室）
- 13日 ながさき・出島「古写真の世界」展（於：浜屋百貨店10/13～23 共催：附属図書館）
経済学部分館運営委員会
- 16日 メ・リングリスト管理者養成講習会（下田運用係長、泉総務主任、森石図書管理係員、佐々木医学情報係員、宮崎医学分館運用係員）
- 18日 展覧会「出島の科学」（於：長崎市立博物館10/18～11/26主催：長崎大学 協力：附属図書館）
- 23日 メ・リングリスト管理者養成講習会（松尾参考調査係長）
- 24日 係長会議
図書館見学（佐賀県立白石高校生徒・教諭58名）
- 25日 目録システム地域講習会「雑誌コース 定員10名」（於：附属図書館10/25～27 講師：金丸明彦＝佐賀大 瓜生照久・堀優子＝九大 木場隆司＝鹿児島大 志波原智美・下田研一＝長崎大 受講生：山本知美・原田一洋＝長崎大 他8名）
- 31日 図書館見学（長崎県立長崎明誠高校生徒・教諭80名）



（長崎大学附属図書館所蔵「グラバー図譜」より「ニシキエビ」）

長崎大学附属図書館報

図書館ニュース

No.81 2000年11月30日発行

編集委員会：委員長 村上章徳

松尾貴久・堤 尚子・塩塚一枝・酒井小夜子・原田一洋・山本知美

発行：長崎大学附属図書館 〒852 - 8521 長崎市文教町1 - 14 ☎(095)847 - 1111(代)

ホームページアドレス：<http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/index-j.html>